

# “TENNIS...PLAY AND STAY”

デーブ・マイリー

## はじめに:

国際テニス連盟(ITF)は、テニス人口の世界的な拡大のための全世界的なキャンペーンを立ち上げました。“Tennis...Play and Stay”と銘打ったこのキャンペーンは“Serve Rally and Score”をスローガンとして、簡単で楽しく、かつ、健康的なテニスを普及させることを目指しています。このキャンペーンの基礎となるのが、初心者の指導をするときに、より遅い赤やオレンジや緑のボールを使うことにより、テニスとの最初の出会いからゲームを楽しめるものにするという考え方です。

## “Tennis...Play and Stay”の生い立ち:

テニスを初心者が受け入れやすくするにはどうしたらよいかということを考えるために、2002年に“Intro to Tennis Taskforce”が設立されました。私が責任者となり、世界中のテニス協会やコーチ団体から、PTRのDan Santorumを含めたエキスパートたちを集めたのです。

委員会では、テニスが多くで普及している傍らで、いわゆるテニス先進国において、生活様式の変化に伴う参加数の減少という事態に直面していることが確認されました。テニスはやってみたいスポーツではあるが、継続させることの難しいスポーツであることの結果であるという見解に達したのです。委員会では、初心者に合った形でのテニスの提供が必要であることを確認し、導入のための手法をまとめました。

## キャンペーンの骨子:

- ・ テニスは簡単に楽しめるものであるべきで、指導にあたってはボールスピードの遅い赤・オレンジ・緑といったボールを使用する。
- ・ 初めてテニスをするときから、サーブやラリーやゲームをするべき。
- ・ テニスの試合は楽しいものであり、現行の試合方式やスコアリングシステムは全てのライフスタイルにマッチする。
- ・ テニスは健康的なスポーツであると言うことは、2006年のITFの調査からも明らかになっている。
- ・ テニスは誰もが楽しめるスポーツであり、プレーするのに同程度の相手を探しやすいような評価法を持つべき。

### **テニスを早く楽しめるようにするためにはボールが重要:**

初心者の継続率を上げるためには、適正なボールを使用することが必須であることを確認しました。ボールがゆっくりと飛ぶことにより、プレーヤーには時間的な余裕ができ、コントロールがしやすいのでラリーが続けられるようになります。しかし、実際に初心者の指導に飛びの遅いボールを使用しているコーチの割合は、全世界で1割にも満たないであろうと見られています。“Tennis...Play and Stay”のプロモーションの鍵は、指導者にこのボールのことを理解してもらおうところにあるのです。

### **USTA 36/60 = 飛びの遅いボールと狭いコートでゲームが楽しめる:**

ITF では、特別に優れた能力を持っていない限り 10 才以下の年齢の子供たちはノーマルボールで通常のサイズのコートでのプレーはすべきではないという見解に達しました。そこで、USTA の提唱する “36/60” を推奨します。2008 年からはアメリカでは 10 才以下の子供たちは、まず 36 フィートのコートで赤いボールを使っての練習や試合を行い、次に、60 フィートのコートでオレンジのボールを使って、という段階を経てレギュラーサイズのコートでのプレーに移行するようになります。

### **飛びの遅いボールと小さなコートでより良いジュニアが育つ:**

レギュラーサイズのコートで通常のボールで練習することではなかなかできなかった効率的な技術をより簡単に身につけることができ、より進んだ戦術を身につけることも可能になることから、レベルの高いジュニアの育成のためにも飛びの遅いボールを使うことが重要となります。

### **大人にとっても、早くテニスの楽しさを体験できる:**

飛びの遅いボールはジュニアのためにだけあるものではありません。フランスをはじめとするいくつかの国々では、大人のレッスンに飛びの遅いボールを使うことで成果を上げています。

### **技術指導は?:**

テニスを始めたその日からサーブやラリーやゲームをさせるということで、コーチによっては技術的な指導はどうかという疑問が起きます。技術はもちろん重要です。飛びの遅いボールを使ってゲームを体験させた後、もっと効率的にプレーするための適切な技術や戦術の指導をします。これが、“Game Based Approach”の定義なのです。

異なった種類のボールやサイズの違うコートでレッスンすることはコーチにとってやりにくくなるのだろうか？：

コーチによっては、このようなことを気にするコーチもいますが、指導というものはコーチがやりやすいようにすることではなく、生徒のためになることをすることなのです。たしかに、準備や計画に少し手間はかかりますが、簡単なライン代わりのものを用いることで小さなコートの設営はすぐにできますし、1面に大勢の生徒を収容でき、飛びの遅いボールはラリーが長く続きます。飛びの遅いボールと狭いコートを使うことには多くの利点があり、中でも、初めての人にもポジティブな初体験をさせることができ、テニスの継続率を上げることとなります。

### **Play and Stay Seminar:**

2007年の2月にロンドンで、28ヶ国の各国協会、4つの地域協会、3つのコーチの団体、6つの用具メーカー、テニス事業協会、WTA、ATP TOUR、その他のテニス関連団体等から80名の参加を得て、キャンペーンの立ち上げが行われました。PTRからはDan Santorumが出席しました。

出席者の反応は前向きで、4大大会開催国を含めた40ヶ国のうち35ヶ国が既に調印し、数ヶ月後にはこれらの国々で“Tennis...Play and Stay”の指導者向けの講習会等が始められるようになります。

“Tennis...Play and Stay”は、ATP、WTA、テニス事業協会、用具メーカーや、PTRを含めたコーチ団体からも支援を約束されています。実際にローマとハンブルグでの大会期間中、フェデラー、エナン、クズネツォワ、イヴァノビッチ、ロディック、ナダルといったトッププロたちがそのキャンペーン支援のためのビデオメッセージの収録に協力をしてくれて、ITFの“Tennis...Play and Stay”の宣伝に用いられることになっています。

### **ウェブサイト:**

キャンペーン支援のために、ITFは様々な国の言葉で“Tennis...Play and Stay”のロゴと共に、宣伝や指導のための資料を準備しています。これらの情報は、[www.tennisplayandstay.com](http://www.tennisplayandstay.com)で得ることができます。

ITFは、“Tennis...Play and Stay”が世界中のテニス界に大きなインパクトを与えるであろう事を信じて止みませんし、PTRがこのキャンペーンの支援をしてくださることに大変感謝して

おります。PTR のメンバーの皆様が上述の “Tennis...Play and Stay”を通じての恩恵を受け、USTA の “36/60 プログラム” の支援をしてくださることを期待しています。

### テニスの指導をすることがスポーツなのではなく、テニスそれ自体がスポーツであること:

我々コーチの第一の役割は、テニスの指導を通じて、テニスのテニスたる所以であるゲームをすることの楽しさを教えるところにあります。飛びの遅いボールを使い、できる限り多くの人たちにテニスの素晴らしさを体験させてあげましょう。

#### 【ステージ1: レッド】 (レギュラーコート1面に4面のコート)

- ・ スポンジや低圧のフェルトボールを用いて赤いコート (36ft/11m) でプレーする。
- ・ 推奨ラケットサイズは、16~21 インチ。
- ・ 4~8 歳の初心の子供や、大人の導入として用いる。

#### 【ステージ2: オレンジ】

- ・ 低圧のボール (ノーマルのものより約 50%遅い)
- ・ コートは、縦 18m / 60ft、横 6.5~8.23m / 21~27ft (幅は狭い方がよい)。
- ・ 推奨ラケットサイズは、21~25 インチ。
- ・ 7~11 歳の初心の子供や、大人の初心者用いる。

#### 【ステージ3: グリーン】

- ・ 低圧のボール (ノーマルのものより約 25%遅い) で、フルサイズのコートでプレーする。
- ・ 推奨ラケットサイズは、25~27 インチ。
- ・ 7~11 歳の初心の子供や、大人の初心者用いる。

【筆者略歴】 Dave Miley: ITFの開発部門のエクゼクティブ・ディレクターを務め、ITFの開発プログラムはもちろんのこと、ジュニア部門、シニア部門、車いすテニス、技術科学部門を統括している。1991年にITFに関わって以来訪れた国は130ヶ国以上に及び、各協会への助言、指導者講習会、ジュニアトレーニングなどを行ってきている。また、コーチ教育のプログラムの作成や教育的文献の執筆を行っている: “Advanced Coaches Manual”, “ITF Schools Tennis Initiative Teachers Manual”, “Developing Young Tennis Players” 1984年と1987年にはアイルランドの男子ダブルスのチャンピオンに輝いている。ITFの“Intro to Tennis”準備委員会の委員長を務め、今回のキャンペーンに至っている。

【翻訳・監修】 鈴木真一: アト・イン桜テニススクール(柏市)代表 / PTRインターナショナル・テスター & クリニシャン / PTRテスター委員会委員 / JPTRプロ・オブ・ザ・イヤー(1986)、PTRプロフェッショナル・オブ・ザ・イヤー(2001)を受賞